

アクセス方法
 <電車>
 東京方面から
 JR中央線「新宿駅」→「王子駅」→中央本線「上野原駅」
 JR中央線「新宿駅」→「王子駅」→「飯尾(いいは)」行き
 (約1時間15分)→富士急山梨バス「飯尾(いいは)」行き
 →「西原支所前」下車(約40～50分)
 ※バスの本数が少ないので、事前に確認された方が安全です。
 <車>
 中央自動車道 上野原IC→県道33号線→県道18号線
 →西原(約40分)

memo



小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 127

陽(ひ)のあたる斜面
 ～山梨県 上野原市西原～

2014年1月5日(日)放送

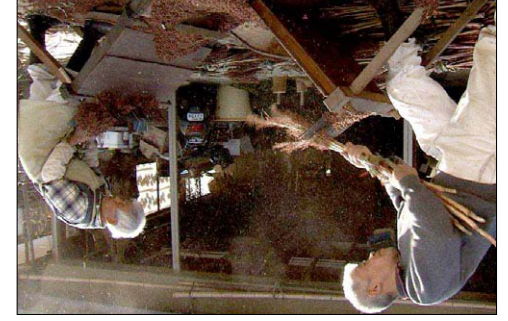
小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>



西原で暮るも早く朝日を浴びる家に住む、降矢重男さん(75)、文代さん(74)、斜面の上に立つ家は、山々が目の前に迫ります。自家用の野菜を作り、夫婦二人でのんびりと暮らすご夫婦。重男さんが13代目となる降矢家は代々この地を守ってきました。庭先には、かつて家族総出で畑つたという、地下3メートルにもなる(むろ)畑があります。作物の少ない冬の間、サツマインモやサトイモを保存しておく貯蔵庫です。夏も冬も温度は18度ほどと一定。山の上の暮らしを支える知恵です。

山の暮らしを支える“室(むろ)”

旅の見どころ 3

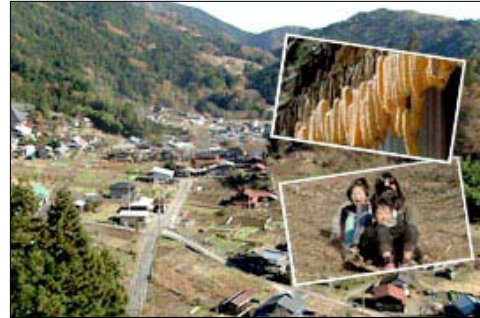


冬明けの下、響くのは脱穀の音。兄弟2人暮らしで昔からの農業を行う、中川智さん(76)、仁さん(58)です。秋に収穫し、乾燥させていた雑穀を、千歯こきや木杵(きうち)などの道具を使い脱穀します。中川さん兄弟が育てる雑穀は20種類以上。ざっと西原で作られてきたものは何でも。2人の父、重さんの口癖に「タネは絶やすな」という教えを守りながら、大切に育てています。中川家の夕食は手打ちのそば。受け継いだタネが、質素でせし、いたく日常生活を支えています。

雑穀を育てる暮らし

旅の見どころ 2

山梨県の東、660人が暮らす上野原市西原(さいはら)。山々に囲まれた急斜面のため水田はできず、人々は山を切り開いて作った畑で作物を作って暮らしてきました。斜面の畑を耕し、子どもたちの笑顔を思って冬野菜を収穫する女性。「タネだけは絶やすな」と言い残した父の教えを守り、今も雑穀を育てる兄弟。斜面の上、遮るものない絶景に抱かれ暮らす夫婦。東京から移り住んだ若者。西原を明るく彩るイルミネーション。冬深まる風景とともに、暖かな陽(ひ)の注ぐ山里の暮らしを見つめる旅です。



旅の見どころ 1
急斜面の畑を大切に守る
 転がり落ちそうなほどの急斜面にある畑。南向きで日ざしをいっぱい浴びる畑で、船木澄江さん(73)は野菜を作っています。大変なのは収穫後に畑を耕すこと。1年のうちに斜面の下へ落ちた土を上げるように耕し、春に備えます。これを地域では「うない上げる」といいます。船木さんは、離れて暮らす子どもたち、孫たちに野菜を送ることを楽しみに、毎日のように畑に立っています。「おみやげって土の産まれるって書くからね」。船木さんの言葉です。

